マニシア MANIZIA

ダンスアーティスト・ダンスムーブメントセラピスト・ダンサー。長期におけるNYを拠点とした活動後、プロダンサーたちと障がいのある人々とのダンスグループ、ワレワレワークスを結成。難病の子ども、パーキンソン病の方、DV被害者、不登校生、少年院のティーンを対象としたWSや作品のクリエーションなどに挑戦しながら、あらゆる場所にダンスの種を蒔き続けている。医療や福祉、教育におけるダンスのみならず、様々な分野で、ダンスの可能性を追及することにパッションを抱いている。

ホームページ　https://www.manizia.com
E-mail　wale_waleworks13@yahoo.co.jp
在住地　福岡県福岡市

活動歴・受賞歴

○活動歴

海外での活動

「Origami Dance」NY(2003)、「Origami Dance」ギリシャ(2005)、「WArTER」ルッカ(2009)、「MU」パリ(2013年)、dancin' OXFORD DANCE FESTIVALに招聘(2013年)、PEOPLE DANCINGウェールズに招聘(2014)「The Thinker」シチリア(2015)、日韓交流「ダ、デン、ダダンスプロジェクト」(2015)、「When I draw my last breath」スペイン(2019年)

コミュニティでの活動

「47memories」福岡市民会館(2013)、沖縄キジムナーフェスタ「コザの息」(2012)「石のうた」(2013)、三陸国際芸術祭「時の輪～Passing through our body」(2014)「光の中へ、うさぎがはねる時～ When Rabbits bounce into the Light」(2016)「ひゅるりひゅららり風は舞う」(2017)、福岡市民会館にて難病の子どもたちと共に踊る「ココのダンス」開催開始2016年一度開催継続中、パーキンソン病患者を対象としたダンス2016年開始(公演及びWS継続中)、九州国際ダンスコンペティションあしながおじさん賞受賞(2017)、「空に溶けゆく言葉のかけら」沖縄市民小劇場あしびなー・那覇市ひやみかちマチグヮー館(2018)、仙台市民文化事業団主催事業「せんだいダンス」2018年より開催継続中、国際交流基金アジアセンター主催WS(2019年)、福岡県ももち文化センター主催PEOPLE ART PERFORMANCEコミュニティーダンス公演2019年より年一度開催継続中、福岡少年院にてWS(2020)「虐待について考える」ダンスアンドディスカッション(2021)、堺市文化振興財団ダン活Aプロ(2021)

ワークショップ歴

〈2005、2006年〉福岡市私立幼稚園連盟主催（教諭対象）
〈2000年〉ECArTEギリシャ
〈2009年〉ECArTEロンドン
〈2011年〉福岡市立西部療育センター
〈2012年〉静岡文化会館主催（母子と父子対象）
〈2013年〉ECArTEイギリス
〈2017年〉福岡女子大学主催（親子対象）
〈2018年〉子ども文化コミュニティ主催（障がい児の親子対象）、国立夜須高原青少年自然の家主催（視覚障がいの子どもたち対象）、紅葉幼稚園（親子対象）
〈2020〉マレーシア(子ども対象）ミャンマー（教育者対象）オンラインWS、福岡少年院
〈2021年〉マレーシア（子ども）と福岡（フリースクール生）オンラインWS、(公財）堺市文化振興財団主催(多世代対象）
〈2022年〉東広島芸術文化ホールくらら主催(不登校生、こども園、小学校、多世代対象)、中等少年院人吉農芸学院

●被災地でのWS
〈2011年～2013年〉石巻市、大船渡市、気仙沼市

可能なワークショップ等のスタイル

アウトリーチ

❶親子のワークショップ

ママ、パパ、ファミリーを対象。触れ合いながら遊びや歌をダンスに変化させていき、育児の疲れやマンネリを吹き飛ばすオリジナルダンスを参加者と共に創っていく。絵画やリズム創作を取り入れて総合舞台芸術としてのダンスを体験してもらう。
劇場建築全体をアート空間として感じるためのサイトスペシフィックなワークショップも可能である。

❷幼児、ティーン、多世代のワークショップ

身体能力の違うもの同士が集まり、言葉やドローイングから得るイマジネーションを膨らませて、身体が自由におしゃべりできるグループ間の関係を作っていき、それぞれの表現が発揮できる瞬間や全ての参加者が可能となる動きを発見していきながら、どの人が欠けても成り立たない世界でたったひとつのダンスを創っていく。

◎実施条件（共通）
▶アシスタント：参加人数によっては必要
▶参加適正人数：10～30名
▶1日の実施可能回数、時間：要望にお応えできます。
▶必要機材：iPodなどを接続できる音響システム
※上記すべてを劇場空間で公開ワークショップにすることも可能

この事業で可能な公演スタイル

レパートリー作品

❶『MU』

❷『When I draw my last breath～私が最後の息をする時』

❸Initial Cry～産声

「生きること」を作品を通して観客と共に考えます。2013年にパリで、上演後にディスカッションをするPerformance&Discussionを提案しました。作品鑑賞から思い出された感情や経験と向き合い、参加者全員で言語表現してみます。ダンス作品を深く感じてもらう約90分の活動。
▶上演時間：30分
▶出演者数：
❶2名（登録アーティスト＋共演者1名）
❷5名（登録アーティスト＋共演者4名）
❸1名（登録アーティスト）
▶現地スタッフ：舞台監督1名、音響1名、照明1名
▶上演環境：
(1)会場の広さ・形状：6m×6m～10m×10m程度（応相談）
(2)リノリウム：黒もしくはグレー
(3)舞台セット：①のみ椅子4脚

市民参加作品

その地域の「特性」や「ニーズ」を活かして参加者との協働制作を目指します。▶上演時間：30~60分▶出演者数：TPOにより1名とアシスタント、もしくは音楽家▶市民参加公演の形態：参加者と新しい作品を創ることやレパートリー作品をリメイクすることも可能。パフォーマンス空間をステージだけでなく劇場の建築を利用しサイトスペシフィック式の公演も可能。
▶参加（出演）人数・回数：10～100名程度。回数の目安は、5～8回程度
▶同行スタッフ：音楽演奏者（応相談）
▶現地スタッフ：照明1～3名、音響1名、舞台監督1名
▶上演環境：
(1) 会場の広さ・形状：5間×5間以上希望（応相談）
(2)リノリウム：あれば黒もしくはグレー
(3)必要機材、舞台セット：会場付帯設備など（応相談）